



第15次共同研究（平成26～28年度）の概要

研究主題

実践的指導力の向上に係る支援の在り方

ねらい

各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する指導資料や講師情報を共有するとともに、各教育研究所・研修センターが実施する教員研修の充実を図ることで、教員の実践的指導力の向上に資する。

研究内容1

- 「授業改善」及び授業改善を促す「校内研究」支援の在り方
- (1) 授業改善のための支援
 - ア 指導と評価の一体化の促進
 - ・目標及び適切な学習活動、評価規準、場面・方法を設定した授業実践等
 - イ 思考力を育む授業づくりの促進
 - ・言語活動の充実、考えさせる場を設定した授業実践等
 - ウ カリキュラム改善の視点を踏まえた授業づくりの促進
 - ・学校教育目標の具現化を踏まえた教科指導の推進、系統性や教科相互の関連を踏まえた実践等
 - (2) 校内研究活性化に向けた支援
 - ア 目的やねらいを踏まえた校内研究の促進
 - ・課題の洗い出しから研究のまとめまで、一連の校内研究の進め方についての理解とその推進等
 - イ 協働的な校内研究体制構築の促進
 - ・ワークショップ型研修など、全教職員で取り組む体制づくりの推進等

研究内容2

- 地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援の在り方
- 教員研修の充実に関する支援
 - ア 専門性の向上に資する講師情報の共有促進
 - ・研修内容別講師一覧、活用できる関係機関一覧の作成等
 - イ 教員のライフステージに応じた研修の促進
 - ・研修内容及びプログラムの共有、充実等
 - ウ 研修講座の実施、運営の充実促進
 - ・研修準備、開催要項・講師依頼状等の作成、効果的な進行等

第15次共同研究推進計画

平成26年度<1年次>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教員研修に係るアンケート」の実施 ○ 共同研究推進委員所属機関における実践的指導力の向上に係る実践の交流 ※ 所員の力量向上に向けた研修（学習評価、言語活動の充実及び校内研究の推進の在り方についての演習）
平成27年度<2年次>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教員研修に係るアンケート」の集計結果の分析 ○ アンケートの分析結果に基づく成果と課題の明確化 ○ アンケートの分析結果に基づく実践的指導力の向上に係る実践事例の収集及び収集した実践事例の還元 ※ 所員の力量向上に向けた研修（カリキュラムの改善の視点を踏まえた授業づくり、協働的な校内研究体制の構築、研修講座の充実に関わる演習）
平成28年度<3年次>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員研修に係るアンケートの分析結果を踏まえた、実践的指導力の向上に係る実践の収集 ○ 教員研修に係る追跡アンケートの実施、分析 ○ 実践的指導力の向上に効果の見られる実践の収集及び普及

1年次の取組と今後の方向性

- 道内の校内、校外における教員研修の現状等を把握するため、教頭・主幹教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭等を対象に「教員研修に係るアンケート」を実施しました。
- 3月11日現在、全道の対象教員の約15%に当たる、4,400名の方に回答いただきました。結果については、4月以降、道研連Webページ（<http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp>）で公表します。
- 2年次に共同研究推進委員会でアンケート結果の分析を行い、道内の教員研修の現状と課題を明らかにするとともに、課題解決に役立つ実践事例の収集等を行います。

所長研修会

平成26年4月18日（金） 会場：北海道立教育研究所

平成26年度総会に引き続き行われた所長研修会では、前豊浦町教育委員会教育長 田中 了治 氏による「教育研究所・研修センターの所員・研究員の力量向上に向けて」と題した講演と各教育研究所・研修センターの研修事業等の充実に向けた協議を行いました。

<講演の概要>

- ・管理職は、確固たる経営理念とそれを具現化するビジョンをもつことが大切であり、それらが浸透した学校は、教職員が一団となって教育活動が推進されること
- ・教育研究所・研修センターも運営に係る理念を明確化することは重要であり、これまでの取組に縛られず、今日的な教育課題や域内の教職員のニーズに目を向けるとともに、課題を解決するだけでなく将来を見据えた創造型の組織へと変革すべきであること
- ・研修講座の講師となる優れた人材の発掘は、所員が自分の足で探すなど行動力が必要であること



田中 了治氏の講演の様子

<協議の概要>

各加盟機関における教員の資質・能力の向上に係る取組についての意見の交流

- ・研修講座に授業公開を取り入れるなど、理論と実践を結び付ける工夫をしている事例
- ・研修講座後に追跡調査を行い、講座内容の普及・還元状況を把握することで研修事業の改善に生かす事例などの紹介がありました。

夏季所員研修会

平成26年7月31日（木）・8月1日（金） 会場：北海道立教育研究所

各加盟機関の所員・研究員等の資質向上を目的に、毎年開催している「夏季所員研修会」では、1日目に北海道教育大学大学院教授 笠井 稔雄 氏による「教育委員会・学校と教育大学の連携・協働による『学び続ける教員』への支援の在り方について」と題した講義や、各教育研究所・研修センターにおける取組や課題についての交流を行いました。

2日目は、「ICTの活用」「校内研究支援」「授業改善」について講義・演習を行うとともに、2日間のまとめとして、「これから教育研究所・研修センターで取り組むこと」について個人で振り返った後、グループ協議を行いました。



笠井 稔雄氏の講義の様子

<参加者の声>

- ・笠井先生の講義は、これからの教員に必要な能力について具体的で参考になるものだった。
- ・研修会の内容を、自分の地域にどのように還元したらよいか、具体的に考えることができた。

次年度も、所員・研究員等の力量向上、全道の教育研究所・研修センターの取組の改善・充実の視点を深められる内容としたいと思います。

平成27年度事業計画

- | | | |
|----------------|----------------------|-------------|
| 1 総会・所長研修会 | 平成27年4月24日（金） | 北海道立教育研究所 |
| 2 夏季所員研修会 | 平成27年7月30日（木）、31日（金） | 北海道立教育研究所 |
| 3 研究発表大会（渡島大会） | 平成27年9月3日（木）、4日（金） | ロワジュールホテル函館 |
| 4 委員会 | 平成28年2月5日（金） | 北海道立教育研究所 |

発行（北海道教育研究所連盟）

事務局：〒069-0834

江別市文京台東町42番地 北海道立教育研究所内
TEL 011-386-4513 / FAX 011-386-4988
URL <http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp>
E-mail dokenren@hokkaido-c.ed.jp

■分科会Ⅰ、Ⅱ（大会1日目午後、2日目午前）

各日、2つの分科会で、それぞれのテーマに基づいた提言発表と参加者による協議が行われました。



第1分科会

「ライフステージに応じた研修の工夫・改善」

【提言発表1】

横浜型 育ち続ける学校 ～校内人材育成の鍵～
横浜市教育委員会教職員育成課主任指導主事
北村 高 則 氏

- ・若手教員育成に関わる支援や研修の実際について
- ・学校の自主性・自律性を高めるOJT支援について など

【提言発表2】

リーダー養成研修「東京教師道場」
東京都教職員研修センター指導主事
山 根 まどか 氏

- ・ミドルリーダーの育成を目指した取組について
- ・中堅教員の育成の在り方について など

【助 言】

国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官
樋 口 雅 夫 氏

第2分科会

「実践的指導力の向上を図る研修の工夫・改善」

【提言発表1】

中核となる教員を育成するための研修内容の工夫・改善

- 北海道立教育研究所企画・研修部主査
俵 谷 俊 彦
- ・北海道の広域性を踏まえた取組について
 - ・研修内容の普及・還元について など

【提言発表2】

人材育成を図り、市町村・学校の自立をうながす「校内研究支援プロジェクト」
大阪府教育センター主任指導主事
酒 匂 雅 夫 氏

- ・学力向上を目指した校内研究支援について
- ・関係機関と連携した人材育成について など

【助 言】

国立教育政策研究所教育課程研究センター
基礎研究部総括研究官
西 野 真由美 氏

■協議後の発表から

第1分科会

- ・全国的な傾向として教員の大量退職、大量採用が見られる。
- ・初任段階研修の対象を1年目の教員だけではなく、教職経験2～3年目まで広げるケースが多くなっている。
- ・各学校における研修の充実と、教育研究所・研修センターの研修支援の充実を図ることが、今後一層求められる。

第2分科会

- ・初任者だけではなく、各地で若手教員が悩みを抱える事例が多く挙げられており、対応するシステムづくりが必要である。
- ・教育活動を改善・充実させるためには、若手教員の力量向上も必要である。
- ・夜間に研修講座を開設するなど、参加しやすい時間の工夫も紹介されたが、勤務時間との兼ね合いなど課題もある。

■助言の概要

第1分科会：樋口教育課程調査官

- ・若手教員、中堅教員、ベテランを問わず授業力の向上は共通の課題であり、若手教員の指導を行いながら、副次的な効果として、指導的な役割を担う教員の指導力も向上することから、地域や学校の実情に応じた教員支援の取組を積極的に進めること。

第2分科会：西野総括研究官

- ・教育研究所・研修センターが抱える課題の一つが研修内容の普及と還元である。「これが大事である」という伝達や情報提供だけでは現場は実行に移すことができないので、「これならできそうだ」という仕組みや体制づくりも示すこと。



2日目の第2分科会提言発表



2日目の第2分科会グループ協議

西野総括研究官 樋口教育課程調査官



2日目閉会行事における助言者講評

平成26年度全国教育研究所連盟研究協議会(北海道大会) 平成26年度第69回北海道教育研究所連盟研究発表大会(石狩大会)

平成26年9月25、26日、北広島市芸術文化ホールと石狩教育研修センターを会場に全国から205名の皆様に参加いただき、全国教育研究所連盟の研究協議会北海道大会(兼平成26年度第69回北海道教育研究所連盟研究発表大会)を開催しました。

研究協議会のテーマ「経験や地域の実情の違いに応じた研修の在り方」のもと、講演や基調提案、分科会ごとの提言発表、協議を行いました。

■大会日程について

9月25日(木) 1日目

〈午前〉 ※ 道研連加盟機関のみ

- ・道研連研究発表大会開会式
- ・第15次共同研究について

〈午後〉

- ・全教連研究協議会開会行事
- ・講演、基調提案
- ・分科会 I

9月26日(金) 2日目

〈午前〉

- ・分科会 II
- ・閉会行事

1日目〈午前〉

第15次共同研究について



共同研究推進委員

岩本委員長による説明



「大会要項」の表紙



開会式における全国教育研究所連盟委員長 挨拶(国立教育政策研究所長 大槻 達也氏)



「誰もが行きたくなる学級・学校を造る」と題した講演の様子(広島大学大学院教育学研究科教授 栗原 慎二氏)

■講演(大会1日目午後)

演題 「誰もが行きたくなる学級・学校を造る」

講師 広島大学大学院教育学研究科教授 栗原 慎二 氏

〔概要〕

- ・学習意欲は生徒指導の要因に関係しており、学級にいじめがないことや雰囲気よさなどが意欲の向上に関連している。
- ・入学当初、集合として構成されていた児童生徒を、集団にかえていくことが学級づくりである。
- ・集団には共通の目標があり、そこにはまとまりややる気、助け合いが見られる。集団の中の児童生徒は、自分の役割を果たそうとしたり、規範意識を身に付けたりしている。
- ・教師は、子どもたち同士で支え合う力を育てる生徒指導を行うことが大切である。
- ・問題行動を繰り返す児童生徒に対しては、どのように行動すべきかを具体的なプロセスを含めて教える必要がある。
- ・对人的適応力が高くなれば、学習的適応力も高くなることから、生徒指導と学習指導を一体的に取り組む必要がある。

最後に、「児童生徒がつながりをつくる生徒指導が実践できる学校づくりのために、教員はどのような力を付けるべきか」というビジョンを各教育研究所・研修センターがもつ必要がある。」とエールを送っていただきました。



全体会場：北広島市芸術文化ホール「花ホール」